

昭和20年代の川越

昭和20年8月15日に第2次世界大戦が終結して日本の混乱が始まりました。私は終戦の時は年齢は12才で小学校の6年生でした。川越市は直接の戦災は免れましたが経済、食糧難は深刻でした。昭和21年には学制改革があり6、3、3制となり私達も大変な時代でした。21年当事の川越市は人口5万人程度の小さな市でしたが22年頃から徐々に復効の兆しが見えてきました。当時の川越の中心街は蓮馨寺を中心に中央通と川越銀座商店街でした。お正月には蓮馨寺の馨内ではサーカスや見せ物小屋がでて大変な賑いででした。当時はテレビもなく映画の全盛時代で川越の中心街にも4つの映画館がありました。20年代の駅名も川越駅は西町駅、川越市駅は六軒町駅、本川越駅は新田町駅でした。その頃の川越の主様駅は川越市駅で東武バスも駅構内まで入っていました。昭和23年に川越市も近隣の古谷、南古谷、高階、福原、大東、霞ヶ関、名細、山田、芳野9ヶ村と合併して大きくなり人口も10万人をこえました。昭和25年頃から川越の中心街も徐々に川越駅方面に移り始めました。20年代後半には丸広百貨店等大型店が続々と川越駅周辺に進出して今までの中心街は寂れていきましたが、小江戸川越として鐘突堂、蔵造り商店街、菓子屋横丁等が小江戸川越の観光の目玉として発展してきました。

10月の体重 65、1K 10月24日 平川昭治